たぶん厳密な校正がなされていなかったのではないかと思われる．例えば，荘子の読み方だが人名はソウシ，書名はソウジと読む慣わしになっている（54頁）．申不害を申子害と書いたり，荀子の名前は荀卿（ジュンケイ）であるが，荀郷（ジュンゴウ）と書かれていたり（114頁），同じ人を筍子，筍卿（ジュンキョウ）（199頁）と書かれている．漢字もまちまちだし，ルビも異なるのでどれが本当かわからなくなってしまう．また竹簡と書く所がすべて竹筒となっていて（237頁），全く意味が通じなかった．特にルビの間違いが多い．漢音を正しくはカンインと読むべきだ（249頁）との見解をお持ちの筆者にしては，余りにも多い間違いに早急に訂正文を出される方がいいと思われる．最後にどうしても読めなくて半日考えた文章を指摘しておくと，遍歴医の注でどうしても読めない漢字が出現した．どの辞書を引いても出現しない漢字で，誤植であると思われた．この文章の正しいと思われる文章だけを上げておくと「串鈴医（センレイイ）（走医，鈴医のもとは道士の医師でさらにもとをたどると「巫医」になる）」だろう．

紹介者はこの本の内容の素晴らしさを取り上げたゆえに，この誤植やルビの間違いを徹底して校正されて第二版が出ることを切に望むものである．

（猪飼　祥夫）

［たにぐち書店，〒171-0014 東京都豊島区池袋2-69-10，TEL. 03（3980）5536，2011年2月，A5判，296頁，4,000円＋税］

岡田靖雄 著
『吹き来る風に――精神科の臨床・社会・歴史――』

本書の著者である岡田靖雄氏は，2002年に『日本精神科医療史』（医学書院）を上梓されている．長年にわたり蒐集してこられた精神医療史の膨大な資料をもとに，奈良時代から現代（1965年頃まで）の我が国の精神科医療の歴史を記述された浩瀚な著作である．

この岡田氏による近著『吹き来る風に―精神科の臨床・社会・歴史』は，いわばその続編のようなものである．精神科医療に携わり，東大精神科の赤レンガ闘争にも関わったまさに当事者による精神科医療の現代史である．しかしそれはもはや，精神科医療史の歴史を客観的に記述する歴史ではありえない．客観的に把握することのきわめて困難なこのような同時代史を描くために，著者の岡田氏は一見したところ奇妙にも見える道具立てを用意している．

本書の冒頭「第1章　たどってきた道」では，著者自身の個人史が語られている．しかも著者自身は「わたし」として語られることはなく，首尾一貫「かれ」として語られている．高等学校卒業までのこと，東京大学の駒場と本郷でのこと，医学部を卒業後に精神科に入局し，松沢病院で医療に携わり，東大精神科の赤レンガ闘争に巻き込まれ身を退いたこと，荒川の診療所での医療，精神科医療史と社会的活動のことなど，著者のたどってきた道が語られる．そして「かれ」のことを偏人であるという．行動特性や個性のさまざまな側面を客観的に記述する．貪欲さはなく贅沢はしない．つきあいは義理がたい．弁舌はさわやかではない．慎重である．今でも本，雑誌はよくよんでいる．そして「かれの感じ方・思いは同年代の大多数とはかなりちがっている．我がつよくて協調性にかけるということになりそうである．でも自分の行動は我にしたがっていくしかない．」

このように著者自身のことを規定した後，「第2章　臨床」では自身の精神科医療の経験やそのあり方についての認識が述べられる．岡田氏編の『精神医療―精神病はなおせる』（勁草書房，1964年）と岡田氏著の『精神科慢性病棟―松沢病院1958–1962』（岩崎学術出版社，1979年）の成立

事情や内容が紹介される．外来診療での経験といくつかの症例が紹介される．著者である「かれ」の周辺の人たちが観察され，その行動が描かれているのが興味深い．そして岡田氏の論文「病院のなかで考えたこと――臨床精神医学の方法論によせて――」（精神神経学雑誌，第64巻，1962年）が再掲される．

「第3章　社会」では，ライシャワ大使刺傷事件につづく精神衛生法一部改正に対する反対運動，岡田氏著の『差別の論理――魔女裁判から保安処分へ』（勁草書房，1972年）の内容紹介，保安処分への反対と医療観察法への対応などが述べられ，岡田氏の論文「精神疾患患者への偏見をつくるもの――新聞記事の分析――」（社会医学研究，第13巻，1973年）と「ある一般病院精神科外来における朝鮮人」（日本社会精神医学会雑誌，第2巻，1993年）が再掲されている．

「第4章　歴史」では，岡田氏による戦争と精神科医療，病院史，団体史，呉秀三先生伝とその周辺，その他の仕事が紹介される．精神科用語への取り組み，歴史をまなぶことについての考察が述べられる．岡田氏の論文「ノートから　東京大学医学部卒業者名簿」（科学医学資料研究，第165号，1988年），「ノートから　サムス『DDT革命』への疑問」（科学医学資料研究，第175号，1988年），「精神科における用語について」（精神神経学雑誌，第100巻，1998年）が再掲されている．

岡田氏の同時代史は，さらに現在も進行中である．『青人冗言』（青柿舎）と題する小冊子のシリーズを刊行中で，第1号『歴史をゆがめるもの――医学史研究の方法にふれて」』（1993年11月）から始まり，近刊の第7号『戦争のなかの精神障害者』（2011年6月）まで続いており，第10号まで目標にしているとのことである．

（坂井　建雄）

［中山書店，〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14，TEL．03（3813）1100，2011年8月，A5判，337頁，3,500円＋税］